葉を素材にめっき加工

子供体験教室 in 工場 ものづくり魅力触れる

北上

子供たちを対象にした「ものづくり体験教室in工場」は7日、北上市北工業団地の金属加工業・薄衣電解工業北上工場で開かれた。近隣から参加した親子らが植物の葉のめっき加工に挑戦し、ものづくりの魅力と楽しさに触れた。

県内の産業界や教育界、行政機関が一体となって産業人材の育成を目指す北上川流域ものづくりネットワーク（代表・谷村久興谷村電気精機代表取締役会長）が2017年から取り組む事業。同日は午前と午後の2回開かれ、午前には同市と花巻市の小学生と保護者の24人が体験した。

参加者は同工場の西谷重夫常務取締役工場長から企業概要、社会貢献活動といった説明を受けた後、ヒイラギの葉を使ったしおり作りを実践。葉を薬剤で溶かしてブラシでたたき、葉脈だけを残したものを下処理してから金めっき液に浸すと、キラキラと黄金に輝くしおりが出来上がった。

ヒイラギの葉を使ったしおり作りに挑戦した体験教室

大木陽道君（矢沢小5年）は「液に入れると金色に変わったのでびっくり。良い思い出になった」、弟の昊陽君（同2年）は「実験みたいで楽しかった。作ったしおりはお家に飾りたい」とうれしそうだった。

西谷工場長は「以前から子供たちを受け入れての工場見学などを行っているが、楽しんでもらいながら仕事内容を知ってもらえる機会になれば」と強調。同工場の折居雅明取締役業務担当部長も「業界に興味を持ち、岩手・北上に一人でも多く就職してもらえるようになればいい。その環境づくりをやっていかなければ」と気を引き締めていた。

8日には花巻市の企業で体験教室が開かれる予定。

憧れ実現 恩返しの力走

花巻東高出身 松川選手 箱根駅伝出場、母校に報告

花巻

第97回東京箱根間往復大学駅伝競走で関東学生連合のアンカーを務めた花巻東高出身の松川雅虎選手（芝浦工大2年）が7日、花巻市松園町の同校を訪れ、小田島順造校長に出場を報告した。憧れだった箱根駅伝を「関わった人たちへの恩返し」（23・0キロ）を走った。

時に箱根駅伝を見て「『山の神』という響きに憧れた」といい、花巻東高陸上部で本格的に長距離をスタート。昨年10月の予選会で出場権を得られなかった大学の中から、個人成績が優秀な選手が選ばれる同連合に入り、3日の復路で最終10区を走った。

記録は6番目に当たる1時間10分50秒と、同大にとって2人目の箱根ランナーとして堂々の走りを見せた。

同校によると、1982年に現在の校名になってから箱根駅伝に出場したOBは初めてで、小田島校長は「みんな期待しているし、誇りに思う。後輩にも刺激になる」とたたえた。同校陸上部で指導した遠藤広樹長距離コーチには走り出す10分ほど前に本人から電話があったといい、「楽しんで走るように言った。当時からフォームがきれいでバネがあった。ここからまだまだ伸びる」と語った。

目標タイムには届かず少し悔いも残ったというが、「緊張せずスタートラインに立ち、夢の舞台を走れてうれしかった。先生方や高校時代にお世話になった市民ランナー、家族、友達、応援してくださる人たちが思い浮かんだ」と松川選手。同校陸上部の後輩には「インターハイ、都大路などそれぞれ目標があると思うが、自分もその中で成長し目標を達成できた。みんなにもできる。頑張ってほしい」とエールを送った。

第2代表は男女とも盛岡南

ウエディングクチコミサイト
みんなのウェディング
※県内掲載数59会場
岩手県ホテル部門 2年連続
総合評価 第1位 受賞
『スタッフ評価 第1位』『式場設備 第1位』
『ゲスト満足度 第1位』『料理評価 第1位』
500本の桜が咲き誇る
春の『桜フォトウェディング』
好評受付中！
94,000円（税別）～
ご家族でのフォト・会食プランもございます。